



【図27】2002年 名古屋大学博物館第4回特別展ポスター

れらの資料の	残念なことに、	に大切に展示	建設され、遺	した。この学	教育をおこなう	谷市の生家敷ま	を受け継ぎ、	渋沢が亡く	と思われます。	現在の大学に、	心にした名古日	す。これら名	土にあった大	渋沢は歴史に、	とりある学園
維持管理をこの	その遺族の方	・保管されてい	品ほか渋沢の関	園の中に「澁澤	<b>う</b> 「渋沢国際学	地内に、外国人	一九八五(昭和	なった後、遺族		も必要不可欠な	屋帝国大学時期	古屋大学の初期	(学を構想してい	も関心が深く、	環境を重視して
いまま継続しつづ	ろも亡くなり、 こ	ました。しかし	8係資料が、 ここ	三元治記念館」が	「園」を開校しま	人留学生の日本語	1六○)年に、深	心方がその遺志		は課題ではないか	の大学発想は、	7、渋沢総長を中	たとも思われま	名古屋の歴史風	いました。また

58

•59

おわりに

『名古屋大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)	『名古屋大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)	〈引用文献・参考文献等〉		この展示をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。	第四回特別展「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は、	○○二(平成一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館	一三)年一〇月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二
朝倉健太郎・安達公一「電子顕微鏡をつくった人びと」(医学出版センター、一九八九年)渋沢元治『五十年の回顧』(渋沢先生首寿記念会、一九七四年)渋沢元治『我等の學園』(一九四三年)	朝倉健太郎・安達公一「電子顕微鏡をつくった人びと」(医学出版センター、一九八九年) 『写真集 名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九九一年) 渋沢元治『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九七四年) 渋沢元治『思い出の随想』(渋沢先生著書出版事業会、一九七四年)	『名古屋大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九八九年)『名古屋大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九八九年)渋沢元治『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)渋沢元治『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)	〈引用文献・参考文献等〉 《引用文献・参考文献等〉	〈引用文献・参考文献等〉 「名古屋大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九八五年) 『名古屋大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年) 『写真集 名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九九一年) 渋沢元治『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 渋沢元治『思い出の随想』(渋沢先生育寿記念会、一九七四年)	この展示をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 この展示をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 この展示をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。	「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書はとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 を考文献等〉 キ年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年) 十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年) 二の随想』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 中の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)	一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館 「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は らにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は とに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 上年史 郵局史一』(名古屋大学、一九八九年) 年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 田の随想』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 違公一「電子顕微鏡をつくった人びと」(医学出版センター、一九八九年)
『思い出の随想』(渋沢先生白寿記念会、一九七四年)『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)『大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、	『思い出の随想』(渋沢先生白寿記念会、一九七四年)『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)	『思い出の随想』(渋沢先生白寿記念会、一九七四年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)『我等の學園』(一九四三年)	『思い出の随想』(渋沢先生白寿記念会、一九七四年)大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)大学五十年の回顧』(一九四三年) 『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)	「思い出の随想』(渋沢先生白寿記念会、一九七四年)	小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、 小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、 大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年) 大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八- 大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八- 名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋- 『我等の學園』(一九四三年) 『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九七四年)	「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は とに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 そぞ文献等〉 キ年史 通史一』(名古屋大学、一九八九年) 十年史 通史一』(名古屋大学、一九八九年) 星大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九九一年) の學園』(一九四三年) 田の随想』(渋沢先生著書出版事業会、一九七四年)	一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館 「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は 「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は とに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年) 十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年) 年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 出の随想』(渋沢先生著書出版事業会、一九七四年)
『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)『我等の學園』(一九四三年)	『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)『我等の學園』(一九四三年)	『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)(一九四三年)	『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九八九年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)(名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、『我等の學園』(一九四三年)	『五十年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九八五年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、「我等の學園』(一九四三年)	小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八	年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)	年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年) 年の回顧』(渋沢先生著書出版事業会、一九五三年)
『我等の學園』(一九四三年)	『我等の學園』(一九四三年)	『我等の學園』(一九四三年)	『我等の學園』(一九四三年) 「我等の學園』(一九四三年)	『我等の學園』(一九四三年) 『我等の學園』(一九四三年)	小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、 小をもとに、さらにいくつかの知見を加えて、 「我等の學園」(一九四三年)	「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九九一年) 「名帝大けふ誕生―初代総長 渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は	<ul> <li>一四)年四月から八月にかけて名古屋大学、一九九一年)</li> <li>「名帝大けふ誕生─初代総長 渋沢元治とその時代─」を開催しました。本書は「名帝大けふ誕生─初代総長 渋沢元治とその時代─」を開催しました。本書はとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。</li> <li>参考文献等〉</li> <li>十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)</li> <li>十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)</li> <li>「九四三年)</li> </ul>
名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、	名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)	名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)大学五十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)	名古屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、大学五十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)入献・参考文献等〉	名古屋大学の歴史(1871~1991』(名古屋大学、大学五十年史(通史一』(名古屋大学、一九九五年)大学五十年史(通史一』(名古屋大学、一九九五年)	一 <u>一</u> (1)	「名帝大けふ誕生─初代総長 渋沢元治とその時代─」を開催しました。本書は「名帝大けふ誕生─初代総長 渋沢元治とその時代─」を開催しました。本書は大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九八五年)	屋大学の歴史 1871~1991』(名古屋大学、一九九一年) 「名帝大けふ誕生-初代総長 渋沢元治とその時代-」を開催しました。本書は「名帝大けふ誕生-初代総長 渋沢元治とその時代-」を開催しました。本書はとに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。 十年史 通史-』(名古屋大学、一九九五年) 十年史 通史-』(名古屋大学、一九九五年)
	部局史一・二』(名古屋大学、	部局史一・二』(名古屋大学、一九ヵ	部局史一・二』(名古屋大学、一九九〈献等〉	部局史一・二』(名古屋大学、一九カ〈献等〉		+年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年) +年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)	十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年) 十年史 部局史一・二』(名古屋大学、一九八九年)
十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年) 十年史 通史一』(名古屋大学、一九九五年)	参考文献等〉 参考文献等〉	とに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。「名帝大けふ誕生-初代総長 渋沢元治とその時代-」を開催しました。本書は一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二	とに、さらにいくつかの知見を加えて、まとめなおしたものです。「名帝大けふ誕生-初代総長(渋沢元治とその時代-」を開催しました。本書は一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二	「名帝大けふ誕生―初代総長(渋沢元治とその時代―」を開催しました。本書は一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二	○○二(平成一四)年四月から八月にかけて名古屋大学博物館と大学史資料室が共催で博物館一三)年一○月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二	一三)年一〇月に名古屋大学大学史資料室へこの資料が移管されました。この資料をもとに二	

『中央製作所五十年史』(株式会社中央製作所、一九八六年) 第六号』名古屋大学史資料室、一九九八年) 永塚利一『澁澤元治』(電気情報社、一九六九年) 永塚利一『澁澤元治』(電気情報社、一九六九年) 『中央製作所五十年史』(株式会社中央製作所、一九八六年)	要
りし日の思い出」(『八高五十年誌』八高創立五十年記念事業	
利一『澁澤元治』(電気情報社、一	
六 ・ 稲垣龍一『名古屋帝国大学敷地内植樹調査報告』 (一九三九	
製作所五十年史』(株式会社中央製作所	
『八高の先生がた』(八高八十年祭記念基金委員会、一九九二年)	

一 九 九 一 九 一 九 一 八 一 九 一 八 二 九 一 九 一 九 一 二 九 一 二 九 一 二 九 一 二 九 一 二 九 一 二 九 一 二 八 〇 二 〇 二 〇 七 〇 〇 七 〇 〇 七 〇		- 八	四	一九〇六 一	一九〇三 七	一九〇二 五	一九〇一 一二	1 1	一九〇〇 七		一八九七 一〇	一八九六	一八九四 七	1 1	一八八九 四	一八七六 一〇	一八七一八	年月	
	愛知医専、現鶴舞キャンパスへ移転	第八高等学校創立(八高)			愛知県立医学専門学校に昇格(愛知医専)												仮病院・仮医学校設置	名 古 屋 大 学 関 係	略年表
· 通信省電気局技術課長 東京帝国大学工学部教授(兼任)	「同期電機の特性」でエ学博士学位取得	省電気試験所に	結婚	帰国		伯父渋沢栄一に同行して欧米留学	古河鉱業足尾鉱山所に入所	入隊	東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業	東京帝国大学工科大学電気工学科に入学	第一高等学校卒業	工科に転科	第一高等学校第二部農科に入学	東京府立尋常中学校に編入学	上京、私立成立学舎に入学	埼玉県大里郡八基村大字血洗島にて生誕		渋 沢 元 治 関 係	

一九四七		一九四六			一九四五		一九四三			一九四二	一九四一		一九四〇	一九三九	一九三八	一九三七	一九三一		一 九 二 九	一九二四		一九二〇
Õ	Ξ		八	四	三 5 五	Ŧī.			四		九	Ŧī.	四	四		11	Ŧī.		四	 	 	七
名古屋大学(旧制)に改称	環境医学研究所附置		敗戦	岡崎高等師範学校創立 (岡崎高師)	この頃、空襲が激しくなる	開学式挙行	航空医学研究所附置	東山キャンパスオープン	理工学部、理学部・工学部に分離	学生寮設置、総長懇談会はじまる	愛知県科学技術振興会発足	第一回創立記念式	理工学部設置	名古屋帝国大学創立			愛知医科大学官立名古屋医科大学に移管				名古屋高等商業学校創立(名高商)	愛知医専、県立愛知医科大学に昇格
		名古屋帝国大学総長を退任												名古屋帝国大学総長	帝国学士院(現日本学士院)会員	東京帝国大学工学部停年退官		アメリカ電気学会名誉会員	東京帝国大学工学部長	東京帝国大学工学部教授(専任)		

九 九 三	九七五	九七四	九五六	九五五	九五一	九五〇		九四九	九四八
Õ	<u> </u>		 		四	Ξ		四	Õ
情報文化学部設置					<b>農学部設置</b>	法経学部、法学部・経済学部に分離	教育学部設置	新制名古屋大学設置、八高・名高商・岡崎高師を包括、	文学部・法経学部設置
	逝去(享年百歳)	白寿	第一回澁澤賞表彰	文化功労賞受賞					

著者略歴	
神谷智	百 (かみや さとし)
一九九一年	名古屋大学大学院文学研究科愛知県生まれ
一 九 一 年	工課程(後期課程)単位占屋大学大学院文学研究
在名士	屋大学
専攻 記録	\$P\$史料学

印刷		発	編	著		草 倉 大 史 ブ
所		行	集	者	_	問更ブッ
電 話 〇五二(八七一)九一九〇〒4564 名古屋市熱田区桜田町一九一二〇株 式 会 社 ク イ ッ ク ス	電 話 〇五二 (七八九) 二〇四六 〒6401 名 古 屋 市 千 種 区 不 老 町	名古屋大学大学史資料室	名古屋大学大学史資料室名 古 屋 大 学 博 牣 館	(協力・名古屋大学博物館)神 谷 智	二〇〇三年三月三十一日 第一刷発行	草創期の名古屋大学と初代総長渋沢元治 <sup>名大史ブックレット6</sup>



表紙表:1943年5月開学式に配布された絵はがき。 当時の名古屋帝国大学の建設計画を反映 した完成予想図。

表紙裏:初代総長 渋沢元治